

第34回

総合リハビリテーション 研究大会

～ 総合リハビリテーションの新生をめざしてⅡ ～

日時：2011年9月30日(金)～10月1日(土)

会場：全国社会福祉協議会・灘尾ホール
(千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル LB階)

参加費：一般3,000円、学生1,000円

主催：公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

後援：(順不同・依頼中)

内閣府、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、消費者庁、
社会福祉法人全国社会福祉協議会、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構、
日本障害フォーラム

生涯学習：日本理学療法士協会 生涯学習システム単位取得可
日本作業療法士協会 SIG認定取得研究大会

同時開催

研修会

ICF：専門家間、そして当事者と専門家間の共通言語

9月30日(金) 18:00～21:00

参加費：2,000円、800円(学生)

※総合リハ研究大会参加者は、1,000円、600円(学生)

総合リハビリテーション研究大会とは

リハビリテーションとは「全人的復権」という意味の言葉で、医療だけでなく、総合的なものです。本研究大会は、さまざまな分野の専門家と当事者が力を合わせて「総合リハビリテーション」を一緒に考えていくことが特色です。

第34回の趣旨

リハビリテーションをめぐる状況は大きく変化しています。生活機能の低下のある人々（高齢者や慢性疾患患者など）や、関与する専門職が増え、また当事者(患者・障害者・利用者、そしてその家族)の積極的な参加が必要になり、真の連携のシステム・プログラムが必要となってきました。

「総合リハビリテーション」のあり方や進め方について再考し、原点に戻って皆で力を合わせてつくっていくのが大きな課題です。そこで、昨年から3回（3年）連続して「総合リハビリテーションの新生」という共通テーマを掘り下げていくこととしています。

これまでの固定観念を一度取り払って、新しいリハビリテーションを作りましょう。

プログラム

1 日目

9月30日(金)

10:00~12:30

開会挨拶 金田 一郎 (公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 会長)

記念講演1 ヤン・アルネ・モンสบアッケン

(国際リハビリテーション協会 (Rehabilitation International : RI) ノルウェー会長/RI次期会長)

記念講演2 上田 敏 (日本障害者リハビリテーション協会 顧問/元東京大学教授)

13:30~17:00

シンポジウム1 総合リハビリテーションと障害者制度改革

コーディネーター

藤井 克徳 (日本障害フォーラム (JDF) 幹事会議長/日本障害者協議会常務理事)

シンポジスト

阿部 一彦 (日本身体障害者団体連合会 理事/被災障害者を支援するみやぎの会 代表)

大川 弥生 ((独) 国立長寿医療研究センター研究所 生活機能賦活研究部 部長)

尾上 浩二 (DPI日本会議 事務局長)

清原 慶子 (三鷹市長)

久松 三二 (全日本ろうあ連盟 事務局長)

2 日目

10月1日(土)

9:30~10:50

各分野からみた総合リハビリテーション
各分野のトピックと最新動向 (分科会テーマを中心に)

座 長: 寺山久美子 (大阪河崎リハビリテーション大学 副学長)

発表者: 松矢 勝宏 (目白大学 客員教授)

山内 繁 (早稲田大学研究推進部 参与) / 松本 吉央 ((独) 産業技術総合研究所 知能システム研究部門 グループ長)

伊藤 利之 (横浜市総合リハビリテーション事業団 顧問)

松井 亮輔 (法政大学 名誉教授)

11:00~12:30

シンポジウム2 総合リハビリテーションの視点から災害を考える
—東日本大震災での取り組み: これまでとこれから—

座 長: 大川 弥生 ((独) 国立長寿医療研究センター研究所 生活機能賦活研究部 部長)

1) 生活機能をターゲットとした取り組み

大川 弥生 ((独) 国立長寿医療研究センター研究所 生活機能賦活研究部 部長)

2) 心のケア・精神科からの取り組み

丹羽 真一 (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座 教授)

3) 介護としての新たな取り組み

舟田 伸司 (日本介護福祉士会 災害担当理事)

4) 当事者団体としての取り組み

阿部 一彦 (日本身体障害者団体連合会 理事/被災障害者を支援するみやぎの会代表/東北福祉大学 教授)

5) 自治体としての取組み

後藤 敬二 (仙台市若林区役所障害高齢課 課長)

6) 教育からの取り組み

丹羽 登 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)

●分科会1

労働・雇用「障害当事者のニーズを中心とした就労支援のあり方を考える
—当事者参加の支援計画の策定と実施をめぐる関係機関の連携—」

座長：松井 亮輔（法政大学 名誉教授）／木村 伸也（愛知県医科大学医学部 特任教授）

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 1) 教育機関 | 近田 求（東京都立板橋特別支援学校 進路指導担当教諭） |
| 2) 就労移行支援機関 | 井上 忠幸（東京コロニー 事務局長） |
| 3) 就業・生活支援機関 | 矢野 直子（町田市障がい者就労生活支援センター・レッツ所長） |
| 4) 企業 | 木村 良二（沖ワークウェル 前社長） |

助言者：関 宏之（広島国際大学医療福祉学部 教授）

●分科会2

子ども「関係機関が連携した地域生活移行に向けた取り組み
—肢体不自由の子どもの学齢期から青年期までの連携による事例報告—」

座長：松矢 勝宏（目白大学 客員教授）／吉川 一義（金沢大学人間社会研究域学校教育系 教授）

- パネリスト：中村 敏之（青梅市健康福祉障がい者福祉課 認定サービス係）
 伊藤 泰広（（福）鶴風会西多摩療育支援センター上代継診療所 理学療法士）
 石井 洋征（（福）同愛会秋川ハイム 統括主任）
 金子 直生（（福）同愛会日の出福祉園生活介護事業 担当課長）
 田畑 實（東京都立あきる野学園相談支援センター 主幹教諭）
 小田部 恵（東京都立青峰学園肢体不自由部門高等部 主任教諭）

●分科会3

工学「総合リハビリテーションに生かす工学：支援技術の産業化へ向け」

座長：山内 繁（早稲田大学研究推進部 参与）／松本 吉央（（独）産業技術総合研究所 知能システム研究部門 グループ長）

第1部：使われる支援技術の開発とその持続的提供

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1) 義肢装具の開発について | 沖野 敦郎（（財）鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター） |
| 2) 支援機器の開発と臨床評価 | 田中 理（横浜市総合リハビリテーションセンター 顧問） |
| 3) DAISYの開発と展開について | 河村 宏（（特）支援技術開発機構 副理事長） |

第2部：支援ロボットの産業化へ向けた取り組み

- | | |
|----------------------------|---------------------------------------|
| 4) マイスプーンの開発と産業化 | 石井 純夫（セコム（株）IS研究所） 越澤 孝（全国頸髄損傷者連絡会） |
| 5) 支援ロボット産業化における課題（安全、コスト） | 大場光太郎（（独）産業技術総合研究所 知能システム研究部門 副部門長） |
| 6) パナソニックの取り組み | 北垣 和彦（パナソニック（株）生産革新本部ロボット事業推進センター 参事） |
| 7) 大和ハウス（HAL, Paro販売） | 田中 一正（大和ハウス工業（株） ロボット事業推進室 室長） |

●分科会4

医療「一貫したリハビリテーションサービスを総合的に提供するために
—総合リハセンターの果たすべき役割と機能—」

座長：吉永 勝訓（千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長）／伊藤 利之（横浜市総合リハビリテーション事業団 顧問）

- | | |
|------------------------------|---|
| 1) 脳性麻痺の早期発見・早期療育から青年期へ | 川田 英樹（MD・とちぎリハビリテーションセンター）／福原 啓子（SW・横浜市戸塚地域療育センター） |
| 2) 脳卒中片麻痺の急性期治療から就労へ | 吉村 理（MD・広島市総合リハビリテーションセンター）／渡邊佳代子（SW・広島市総合リハビリテーションセンター） |
| 3) 頭部外傷に伴う高次脳機能障害の医学的リハから就労へ | 青木 重陽（MD・神奈川県総合リハビリテーションセンター）／生方 克之（SW・神奈川県総合リハビリテーションセンター） |
| 4) 頭髄損傷の外科的治療から地域・在宅生活へ | 小川 鉄男（MD・名古屋市総合リハビリテーションセンター）／尋木 佐一（SW・名古屋市総合リハビリテーションセンター） |

●分科会5

災害「総合リハビリテーションの視点から災害を考える
—東日本大震災での取り組み：これまでとこれから—」

座長：大川 弥生（（独）国立長寿医療研究センター研究所 生活機能賦活研究部 部長）

- | | |
|----------------------|---|
| 1) 生活機能をターゲットとした取り組み | 大川 弥生（（独）国立長寿医療研究センター研究所 生活機能賦活研究部 部長） |
| 2) 心のケア・精神科からの取り組み | 丹羽 真一（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座 教授） |
| 3) 介護としての新たな取り組み | 舟田 伸司（日本介護福祉士会 災害担当理事） |
| 4) 当事者団体としての取り組み | 阿部 一彦（日本身体障害者団体連合会 理事／被災障害者を支援するみやぎの会 代表） |
| 5) 自治体としての取組み | 後藤 敬二（仙台市若林区役所障害高齢課 課長） |
| 6) 教育からの取り組み | 丹羽 登（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官） |

お申込み・その他

申込用紙に必要事項を記入のうえ、下記申込先までFAX等でご送付ください。
大会参加費は、下記の口座にお振り込みください。(原則として事前振込をお願いします。)

参加費：3,000円、1,000円（学生）

※同時開催の「ICF研修会」の受講費と一緒に振込みも可能です。
その際、参加費は割引となります。
(研究会+ICF研修会で4,000円、1,600円（学生）)

1) ATMからの振込の場合

ゆうちょ銀行 〇一九店（ゼロイチキュー）
当座預金 611720
口座名 総合リハビリテーション研究会

2) 郵便局・ゆうちょ銀行で払込用紙を利用する場合

振替口座番号 00180-4-611720
口座名 総合リハビリテーション研究会

- ◆介助者等の大会参加費および研修会費は無料です。介助者等の人数を申込用紙に記入してください。
- ◆手話通訳、要約筆記、点字プログラム、その他をご希望の方は、申込の際にご記入ください。

お申込み先
・
お問合せ先

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 企画課

〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1

TEL：03-5292-7628 FAX：03-5292-7630

URL：<http://www.normanet.ne.jp/~rehab> Mail：rehab@dinf.ne.jp

FAXによるお申込みのほか、下記ページからもお申込みいただけます。

URL：http://j-icf-s.d.dooo.jp/sub_20110930_34_sougoreha.html

全社協・灘尾ホール

〒100-8980 千代田区霞が関3丁目
3番2号 新霞が関ビルLB階
TEL：03-3580-0988
FAX：03-3581-7865

交通案内

- 虎ノ門駅
(地下鉄銀座線/11番出口)
..... 徒歩5分
- 霞ヶ関駅
(地下鉄千代田線・丸の内線・
日比谷線/A13番出口)
..... 徒歩8分

